

2020年度入学試験筆記試験第2次募集（小論文試験）

諫早湾干拓事業をめぐることは、2019年8月の時点で、排水門の開門について、開門賛成派と開門反対派が対立し、相反する判決が並存する状態となっている。次の問題文を読んで、後の設問に答えなさい。

【文章省略】

下記の文章を示し、以下のように出典等の記載を付した。

〔出典：加藤雅俊「諫早湾干拓紛争からみる紛争処理システムとしての司法制度の意義と限界－政治学の立場から」法学セミナー766号（2018年）44～49頁。出題の都合上、文章の一部を省略し、注及び小見出しを削除する等の変更を加えた。〕

設問1

紛争処理システムとしての司法制度の特徴とその限界についての筆者の主張を、300字以上400字以内で要約しなさい。

設問2

紛争処理についての筆者の見解をふまえて、ここで問題となっている諫早湾紛争処理方法として何が適切か、その理由を示しつつ、600字以上1200字以内で論じなさい。